

*竹内 雅幸 法・シス 愛知県

⑦1冊のエッセーの影響で何気なく入ったワングルですが、自分の生き方や価値観が180度変わりました。ワングルを通して体験した経験や、多くの人との出会いはかけがえのない財産です。白山に初めて登った時の感動は忘れられない思い出です。

*森本 達也 工・機械 京都府

③北海道の大自然を感じた。
④荒島岳 冬山の恐さを知った。

*渡 洋子 医・保健(看護) 長崎県

①自然と触合いたかったから。
②とても楽しかった。
④白山
⑤色々なことを経験出来たこと。

*古田 弥生 教育・学校 岐阜県

①ワングル部員に誘われ、2回生から入部しました。写真で見せてもらう景色や伝えきく話に興味を持っていたのですが、アトピーをもっているため、衛生的によくないと、入部を拒んでいました。

⑤しかし、実際に入ってみると、澄み渡った空気や、絶景を見るためか、調子もむしろ良くなった気がします。

数々の魅力ある山に登る中で、山の素晴らしさはもちろん、自然の大切さや仲間の大切さも学びました。ワングルでの日々は、大学生活の一番の思い出になることまちがいないです。

2002 年度小屋作業計画書

CL: 深作

(日程)5月11日(土)~12日(日) 1泊2日

(目的)高三郎登山道(今回は、特に新道)の整備を重点的に行う。

ナカオ山岳及びOBの方々との交流を通して、大人数での作業の楽しさを味わう。

高三郎のベストシーズンに行くことで、高三郎の新たな魅力を知る。

(作業内容)ボートで精鋭作業隊を順次送り出し、大体ルートを開いて頂いた後を支給された道具を駆使して整備する。残りの人は、荷物送りに専念し作業の効率アップを図る。

1日目は旧道の整備, 2日目は旧道整備の仕上げをして、ピークをとり、新道で下山する。



タニウツギ咲く舟着場

作業チーフとして

45期 深作 亮太

毎年恒例の小屋作業、今年は“プロジェクトクラコシ'02”と題され、金大ワングルOB及び金沢ナカオ山岳会の方々の協力も得て、盛大に行なわれた。

5月11日(土)、作業当日はあいにくの空模様。4名の新人も参加していることから、雨の高三郎に多少の不安を感じていた。

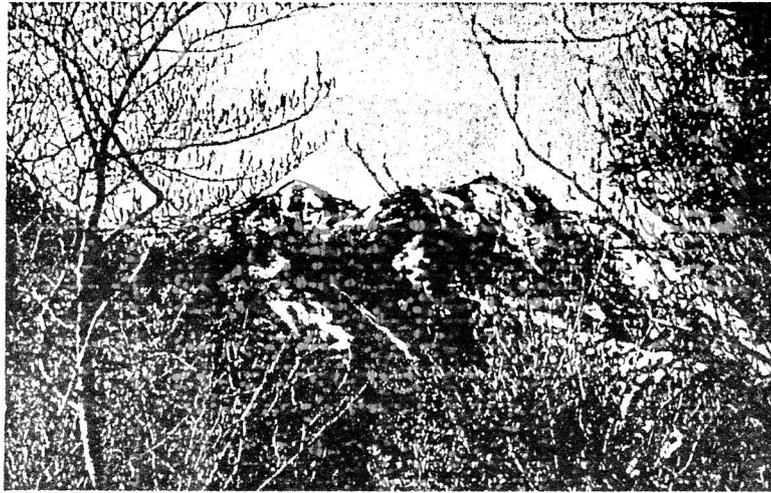
犀川ダムから倉谷までは山下さん所有のボートで送迎して頂きました。これには一同大感激!! 悪天候で沈んだ心も一気に晴れ渡り、BHに到着した現役「精鋭作業隊」から順次BHの中、及び周辺の整備に取り掛かり、頼れるOB、そして山岳会の方の到着を待った。

その後、OB会及び山岳会の方々と合流した我々は、3パーティに分かれ、雨の高三郎整備に出掛けた。夜の小屋酒場を楽しみに…!?

今年は新道(とくに、砥倉分岐から大岩までの約1km)を重点的に整備した。

さてさて夜はといえば…楽しい、楽しい山小屋酒場。あいにく天気は回復しないものの、普段接することのできないOBや山岳会の方から

金大ワングエル部「聖地」復活



西側登山道を修復する高三郎山(右側)
=昨年5月(舟田さん提供)

高三郎山・西側

崩落の登山道 部員らが復旧

きょうから

金大ワングエル部と同OB会は十一日から、犀川ダムの上流に位置する高三郎山の崩落して登れなくなっている西側登山道の修復に取り出す。かつて「金大ワングエルの山」と呼ばれた練習の場を取り戻す。今月中旬ごろに花を付けるシヤクナゲの群生地にも近く、登山愛好家が待ち望んだルートが復活する。



高三郎山は標高一四二一メートル、犀川の支流である二又川と倉谷川に挟まれた位置にある。同山には金大ワングエル部が約四十年前に作った東側と西側の尾根を通る登山道があったが、西側は七年前には既に崩落し、通行不能となっていた。

新入生などの訓練として登った高三郎山を守る

2002年(平成14年)5月14日(火曜日)

北 國 新 聞

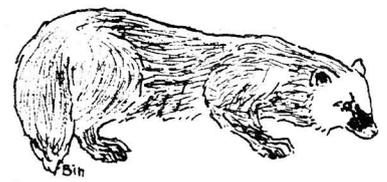
金大ワングエル部、OB会

高三郎山の登山道修復

金大ワングエル部やぶを伐採し安全なルート部と同OB会は十一、十二日、高三郎山登山道を修復した。同山は、犀川ダムの奥を流れる二又川と倉谷川に挟まれた位置にある。

同山は、犀川ダムの奥を流れる二又川と倉谷川に挟まれた位置にある。同部は約四十年前、同山に登山道を作り、新入生の訓練などで利用してきた。

と、同部OB会が西側登山道の復活を計画。登山道整備の経験豊富な「金沢ナカオ山岳会」に協力を求めた。OGの舟田節子さん修復するのは、旧倉谷村の集落跡から約一時間半登った地点。約四十人の有志が十一日から二日間かけて、崩落した尾根



テン

貴重なお話を聞くことが出来、現役の我々にとってには非常に良い機会となった。

時は変わって、5月12日、日曜日。何と、お日様が朝から顔を出している。これもチーフリーダーの人徳かな…！？と思いつつ、整備に出掛けていった。OBそしてナカオ山岳会の方々の力強い助っ人のお陰で、新道は見違える程きれいに整備された。「また、高三郎に來たいなあ！！」という新人からの声も聞かれる程であった。

まずは怪我がなく、何よりであった。心配していた新人達も楽しめたようでホッとした。

伐開作業というのは使命感に燃えてや根を詰めてやるものでなく、楽しい部分も作って、辛いけれど楽しみなイベントにしていくことが大切なのではないだろうか？

少々偉そうなことを言ってしまいましたが、今回は至らぬ所も多々あり、OBそしてナカオ山岳会の方々には数々のご迷惑をおかけしたことと思います。ここに深くお詫び申し上げますと共に、お世話になった方々に厚くお礼申し上げます。

これからも「小屋作業」という行事が年間行事として続いていくことを願って…。

* お礼のメール

45期 竹内 雅幸

小屋作業ではお世話になりました。OBの方々、ナカオ山岳会の方々と触れ合うことができ、多くのことを学べたと感じています。金大ワングルの偉大な歴史に触れたり、花の名前や山菜の料理法を教わったり、BHや高三郎に対する愛着心が湧いたり、得る物がたくさんありました。

僕は今回で現役の行事として小屋作業をするのは最後となりましたが、引退して時がたっていつか、BHに行ってみたい、そんな気持ちになるような気がしています。

一方で、反省すべき点もあったように思います。各パーティのリーダーでさえ今回の作業の段取りを知らなかったように、情報伝達がうまく行なわれていなかったこと、準備や行動が遅く、OBの方や山岳会の方に迷惑をかけてしまったこと。OBの方や山岳会の方との交流が積極的に出来ていなかったことなどが挙げられると思います。

また、一部から今の三回生は頼りないという声も聞かれ、僕自身も考えさせられました。今回の小屋作業の反省を生かして、50年近く続いているという金沢大学ワンダーフォーゲル部を将来に伝えていくために努力したいと思いました。

そんな中、新入生に「高三郎に登って楽しかった」と言ってもらえたのは嬉しい出来事でした。

* 43期 矢田部 桂

昨日、一昨日はご苦労様でした。今日起きたら、恥ずかしながら、筋肉痛になっていました。久しぶりの山ながらも、運動不足の最近の生活を呪ってしまいました。

一日目は天気もあまり良くなかったですが、

二日目は晴れて、すがすがしい五月の空気を胸一杯楽しむことが出来ました。

山小屋での呑み会は準備がたいへんだったと思いますが、OBやナカオの方々、酒やおいしいお肉を囲んでとてもいい時間が過ごせました。ありがとうございました。OB会、現役、ナカオの橋渡し本当にご苦労様でした。

* 19期 梅 典雅

プロジェクト・クラコシ、ご苦労様でした。なかなか充実した2日間ではありましたが、実は初日に手の関節をちょっと痛めてしまい、翌週のことでもあって、昨日は作業を控えさせもらったということもありましたが、お陰様で成ガ峰へ行って来ることが出来ました。下山のルートファインディングを誤り、BHへのピンポイント下山には失敗しましたが、何とか2時過ぎには下山し、金沢での用事も済ませることが出来ました。ありがとうございました。

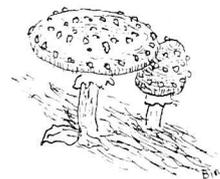
以下に、結果を簡単に報告します。

- 7:00 BH発
- 8:35 砥倉分岐着 5分休憩後発
- 9:00 砥倉ロボット雨量計着。道はしっかりしている。
- 9:10 同発。尾根広く凹地が連続する。ブナ・ミズナラ林で歩き易い所が多いが、成ガ峰手前の鞍部あたりはややブッシュが濃い。
- 10:30 成ガ峰着。山頂は広く、周辺はブナ林。三角点は中央の灌木の中にあった。展望なし（もっともガスであったが）。昼食とする。
- 10:50 同発。いいブナ林が断続的に続く。尾根が広いので、コンパスを見ながら慎重にルートF。989mピークの北の平らなpに
- 11:30 着。このあたりもいいブナ林。

北へ伸びる首稜を離れ、東の尾根に入ったつもりが、100mほど下って誤りに気付く。ここで戻ることも考えたが（今となっては、ここの判断が最大の失敗）、東の尾根目指してトラバース。急斜面のため下り気味になるうえ、ガスで周囲の尾根も見えず、とうとう谷の源頭部に出してしまう。このまま谷を下るのは危険と判断し、尾根を目指してさらにトラバースするが、傾斜は益々急になり、現在地にも自信が持てなくなり、疲労も重なって不安になる。ようやく尾根らしい尾根にたどり着き、これを谷まで下ると、運良く山菜採りの道があり、14:10 無事下山。降りた所はBHより下手の沢だった。

BHの尾根は調べられませんでした。少なくとも砥倉から成ガ峰へはわりと楽に行くことが出来、道をつけることも難しくないことがわかりました。またの機会にBHからのコースをリベンジしたいと思います。

以上です。



キノコ



曾谷 島山* 竹内 萩田
 寺西 寺西 田村* 池田 八十嶋 山本
 出崎 松林* 森本 岩田 加藤 辰野* 吉本* _ …ナカオ
 今村 深作 古田 松本 西村 太島* 三田村 *…OB
 川辺 山本 飯田 林 渡 松山 舟田*
 浅野 加藤* 吉田* 12日朝
 矢田部* 撮影；奥名*

無知でもなく、変換ミスでもなく“踏鞴”が43期連の贈る言葉

プロジェクト
クラコシ

15期 舟田 節子

組織に所属する時、「組織のために、自分は何が出来るだろう」の視点を持てば、どこにも温かい人の和ができ、心地良い時間が流れるであろう…。「自分さえ良ければ」そして、自分の都合を言い立てて面倒から逃れようとする時代にあって、ハイテク化の利便とは裏腹に、世の中は益々住み辛くなっているようである。

小屋作業についても、かたやは
「それは今の現役が考えればいいこと」

かたやは
「かつてのOBが物好きに拓いて、勝手に残していった仕事」

…これらには、

「では、自分に一分の責任もないのか？」

「自分の立場で、何が出来るのだろうか？」

の自省が抜けている。さらには、「思い入れ」と称して冷笑したり、無視したり、常に自分を正当化する知恵もある。

ともあれ高三郎の登山道が荒れてしまったのは、現役（4年後にはOBになっている人達）のせいばかりではなかったと私は考えている。

「伝統」や「OB」の言葉は、酒の肴にあるのではなく、「責任」と「何が出来るか？」が伴

うボキャブラリーであって欲しい。

幸いにも6年前（38期生が4回生だった年の秋）から、登山道修復作業は、金沢市の補助金を受ける仕事として復活した。延べ60人分の日当として30万円。つまりは現在 200万円近くになり、備品の補修に、遭難対策金に、これまでになく部の財政は潤っている。

かつて、25周年行事の際、遭難対策金をプールするためと称し、OBの参加費は1万5千円の高額だった。これに現役も部費を上乗せして50万円を別備蓄。しかしいつまでも現役の人間は存在しない…。その10年後、35周年時に私が関与し始めて尋ねた時には、そんな備蓄金は消えていた。

現役は自由のようできて、4年間の制約がある。OBはまして、仕事に家庭に地域にの責任を抱え込んでいる。しかし、お互いが相手にしてあげられることは…と、考えていけば枠を越えた楽しみも味わえるはずである。

ちなみに、山小屋ベルクハイムは、辰野おやじを筆頭に、吉田、吉本、大島の13期技能集団の尽力により快適に蘇った。もちろんその前には、36期石川主将の代から始まった3年がかりの補修大作戦もあった。今では、「屋根がまく

れていて、床からは萩が茂っていた」ことの方が、へえー！と吃驚される。これらの人達が行動をおこさねば、BHはもうとっくに朽ちていたはずである。

しかしながら、登山道補修作業が復活する補助金の世話をした下さったのは、金沢ナカオ山岳会の林正一氏だった。どんなツテを当たれば等、並の山屋に入ってくる情報ではない。

さらには、OB会設立のアドバイスをくれたのも林さんだった。現役に遭難があっても連絡網もないOB会！でもどうして良いか判らない私に「まず、仲間を集めることだ」と助言して下さった。

毎度のことながら、前置きだけでたっぷり長くなってしまいが…要するに、補修作業で私はまたも行き詰まってしまったのだ。旧道から頂上までは開通したが、クラコシ尾根に手が出せない。伐開に不慣れな現役、かたやOBが「ワングル伝統の道！」と馳せ参じてくれるわけではない。その現役はさらに数が減り、女子の比率が高まった。「あの子達」があの子のヤセ尾根で慣れぬ鎌を振り回すのかと思うと、ソツとする。さらには、何かと不調欠席者が出て、チーフが板挟みになることや、面白みのない秋に作業があって、行く程に高三郎が嫌いになっているらしいことも気になることであった。

早い話が、頼る先は林親分しかない。結局私はクラコシ尾根が現役の手には負えないことを、折りにふれクドいていたのだ。ナカオは創立10周年記念会報「犀奥特集号」のエパニュー会報奨励賞受賞で、世に出た山岳会である。犀奥域を愛すると共に、当時の犀奥開拓者として、金大ワングル部に一目おいてくれた。

「そうやなあ、学生ばかりに押しつけといてもなあ。春に1回手伝ってやるがにするか…」

やったあ！げに恐ろしきはオンナの力！いいや、「逃げない」親分が偉い。ちょっとでも自分にも関わりがあると思ったら、自分にしかやれないと思ったら「やる！」と決め、動かれる。ひとかどの人物に見えて、時間のスクリーニングに掛けたら色褪せた人は余りに多い。たとえ利用されることであっても、利用される以上に応えてこられた…何度も。それを見ながら、私も山を続けてこられたのだ。

嬉しいよ～ん！そうと決まれば、楽しい小屋作業に脚色するゾ！季節はもちろんシャクナゲの咲く頃。そして、ボートで吊橋をくぐる快感も味わってもらおう。高三郎の良さ、小屋の楽しさ…それを味わってこそ大事にしたい気持ちも湧いてくるのだ。老獪なOBはそれがやれなくちゃ、年季が泣くわな！

昨年山の語り部取材で「親密」になった山下さんに、ボート入山をお願いする。山下さんは自分のボートでは小さいと、獺友会の15人乗りボートを手配して下さった。さらにはナカオのシェフ寺川さんに、特製焼肉10キロも調達していただいた。現場の山菜も加えて、大酒宴を張るゾ！

丁度標柱作業にバイトにきていた深作君が3

回生になっているはず。計画を知らせると彼からも、OKと共に「楽しみだー」のメールが入った。もともと、彼らは、新人がいきなり高三郎…には、かなり悩んだらしい。装備を4回生から借りる手配の苦労もあったよう。

OBの方はというと、いつもの13期技能集団が4名に田村教祖、15期奥名、松林、白山BH PWの覇者19期梅、26期島山、さらに院生OBの加藤、矢田部（以上敬称略）と、まあ「OB隊」といえる人数が揃う。

かくして“プロジェクトクラコシ”が発進。



5月11日（土）

当日は残念ながら雨。天候云々が言えるのはノルマではない山、ノルマを抱えない人の言い草だ。「作業」の場合、日延べが出来なければ、「やる」に傾かざるをえない。「それでもやろう」の輩が集まる時、凍え切った手がホカホカに火照ってくるような時間が後には訪れる…その事に、私は結構嵌まっている。

実の所、情報が攪乱したのは現役3回生のせいではなかった。強力助っ人ナカオの参加人員がなかなか揃えなかったのだ。作業日の前はゴールデンウィーク。家族サービスや、その後の仕事の調整もあったらしく、会員からの参加確定電話がなかなか入らなかった。

いくら林さんが「手伝ってやろう」と言っても、会員が参加するか否かは、個々の意志である。ナカオ新道整備ほどの暗黙の強制力が有るわけではない。さらにシビアに言えば、戦力になる会員と物見遊山にしかならない会員が当然ある。私もいわば口と筆が立つ(?)方の会員。林さんと私がイライラする1週間が流れていたのだった。

日帰り、泊り組が確定できたのは前日のこと。ボートがご厚意で、大型で手配出来ていると判明したのもその前日のこと。OBにした所で仕事がか片付いたから、明日は参加出来る…の方達ばかりであったろう。そうそう、うまくはいかない。しかし、そのように「動いてやろう」の人達が集まってくれた。それが何より「プロジェクト」に価することであった。

ボート入山のため、時間差出勤。現役、ナカオ山岳会、OBの順に定めるも、「当然」私と奥名会長は、山下さんへの挨拶にまず出勤していなくてはならない。小立野キャンパスで田村教祖を乗せ、犀川ダムへ。

どんな経緯があっても、この景色には心洗われる。私達の人影を見て、エンジン音を響かせボートを寄せて下さる山下さん。

「今日はお世話になります。」と挨拶したら「わしゃ今日は節子さんの、召使やさかい。何でも、おっしゃるとおり。」と、にこやかなお返事。このボートの手配に、後始末に、面倒をかかえられた筈なのに…

現役の車が現われる。何をどうくっつけたらいいのか、もたもたやっているのはいかにも新人。でも2年後にはいっばしの3回生に変貌している。この成長がなかなか楽しい。舟付場に誘導し、第一陣が出航。「ウッソー」といった

げな笑顔を見送り、後続車を待つ。あ、もうナカオの車が揃いだした。本日私はナカオというよりワンゲル色である。「ありがとうございます」と挨拶しては、舟付場へ。現役後続車分と先行OBと、ナカオの日帰り組が、第2陣。第3陣のナカオ主力に、私も乗り込む。

味をしめたポートからの景色。便利はもちろんながら、このポートで入山出来る…を、もっと高三郎の利点と捕らえるべきである。倉谷は金沢市にとっても、特殊なロケーションの、面白い活用を考えられる土地だと思う。多額の税金を使いながら、何でもダメ、無理、現状固持のみ…どこかおかしい。

高三郎ならではの湖上遊覧を楽しんで倉谷へ。この春は水量が多く、山下さんの作業小屋の床も水没したまま…まだ泊まれたことがないそうだ。後続OBのあと1便をお願いして、BHへ。川床の高くなった箇所が、やはり流れが変わっている。山下さんが「山側に迂回路がある」といっていたが、ようするに彼が拓いておいて下さった路だった。黙ってこんなことをやって下さる方には、ただただ感謝である。

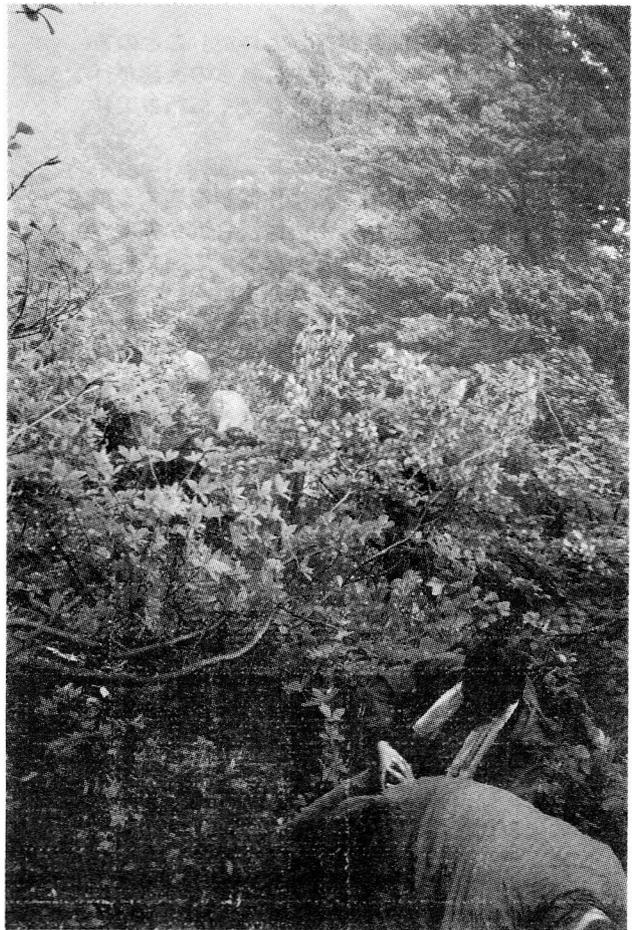
先の2便で、山小屋は賑やかであった。水も滔々と流れ出ている。ワンゲルとナカオが揃っている光景なんて、初夢ほどのまぶしさである。嬉しい!

林さんから、まず伐開の諸注意。道具の使い方、身の守り方…そして根を詰めるな、余力を残し楽しみの部分を持つ事が、安全に伐開し、長続きする秘訣だとの極意伝授もあった。こういうことこそ、ワンゲル伝統の道!と称するワンゲルOBに言ってほしかったな…

サブザックから肉10キロを取出し(贅肉の重さを実感)、鋸、食料、カメラを詰めて、いざゆかん!豪流と化した金山谷を次々に涉って、新道を這いあがる。毎度ながらよくもつけたりの急坂を過ぎ、最終ポートだったはずの畠山さんに抜かれて、クラコシ尾根の現場に到着。尾根にたくさんの人がとりついている様は壮観。「仕事は大勢で」であってこそ楽しい。

最初はシャクナゲの大枝をわざわざロープで曲げもしたが…時間をくうことはやれない。バッサリバッサリ前進。もともと痩せ尾根ゆえ、コシアゲ谷側に傾いた箇所については、水平になるゾーンを払い開けるのみ。現場ならではの「枝先ではなく元から切れ」「先行隊はルートを決め、後続が切り口整備」「切り枝を道に残すな。1m以上奥に投げろ」といった現地指導が入る。ガスが切れる度、うっそうの緑が消えて、整備路が伸びていく。「こっちに伸ばすか、あっちに伸ばすか」のルート選定や「こっちに右足おいて次こっちやな」の蹴均しも、私にはやれず、見せてもあげられない。「やってみせて、口できかせて、させてみて、誉めてやらねば人は動かじ」と、昔も五十六大將は看破していた。伝統が伝わっていないと嘆く前に、見様見真似も出来ない現実がある。汗と雨がごちゃごちゃ、雨具をはだけながらも、ジーンとくるシーンが展開していた。

小屋酒場隊は、あまりの人数に床はまくれないと判断し、小さな補修と宴会場準備…ザック置場を設営し、青テンの屋根を張り、長テーブルを並べる…をしてきていた。体の冷えない



【ヤブと格闘する善男善女】

うちにビールをあげ、現役は食当を。ナカオとOBは山菜料理、焼肉の準備を始める。

山菜をさらに抱えて上がっておいでた林さん。明日のために、金山谷に橋をかけておいでたそうだ。M氏があの小屋掛けに入っていて、一緒に作業していたのだという。こんな技のある人を尊敬してしまう。私…口と筆だけ。

ウド、こごみのてんぶら、焼いたすす竹の子、わらびの酢の物。

「おいしーい。こんなの食べたことないです」「山菜の料理も覚えたいよねえ」

そう、私も現役時代に山菜を楽しんだことはない…ああ、栗ご飯はあったっけ。

肉も次々焼けてくる。味見した新人が「めっちゃ…ウメエ!」

と叫んだ。宴会しながら自己紹介。

「こんな楽しい小屋作業なら何度でもやりたいです」

の感想が嬉しかった。深作チーフがお天気乞いを披露。明日はもうちょい晴れてほしい。

5月12日(日)

外は白み始めたが…疲労で起きる気配がない。とうとう「起きましよう!」を発声する。わざわざ助っ人を頼んでおいて、寝坊はなからう!「お局」役は、必要である。OBになったりナカオになったり、私も忙しいのである。

なんかもたもたやってる現役達。なかでも沈んでいる某君に

「ん?どっか具合悪い?」と聞いたら

「起きたら財布がないんです」の返事。

小屋に戻って「ビニールに入った黒の財布ない

ですかあ？」とやったら、シュラフの下からベ
しゃんこが出てきた。バアアと笑顔になった彼
…まだまだ世間にウブな子達なんだなあ。

出来るだけ仕上げにゃのナカオ隊が、出立。
梅さんは成ガ峰探訪へ、他のOBも車の都合、
その他で昼には出立するという。私は…みんな
には協力してもらった立場だったから「そう、
ありがとう」としか言えなかったが…。

ここはワングルの山じゃないか！なんでお客
をおいて主筋が消えるんじゃ！申し訳なくて
「すみませんねえ。もっとワングルOBが出て
こなきゃならないのに」

とこぼしたら、浅野さんに

「無理ないわね。こんなことは、山が好きなモ
ンでないと出来ん」と言われた。好きだからや
る。人がどうこうではない…。

この10年で悟るしかなかった。なるほどモラト
リアム時代の「道楽」だったのだと…。

今日は旧道から上がり、クラコシ尾根を整備
しながら降りる。旧道は6年の実績、上出来の
整備具合である。それでも、無理と避けていた
木を何本も処理していただいた。

やっぱり昨日の今日はきつい。先行していた
林さん、山本さん、寺西さんjrは頂上の確認に
行かれたが、昨年ほどの好展望は望めない…を
言い訳に、分岐で昼食にさせてもらった。残雪
がまぶしい。丁度新道から上がってきた現役達
の集合写真を撮ってあげる。彼、彼女達は高三
郎の残雪は初めてなのだ。上気した肌に雪焼け
の赤みがさして…きれいだ。元35期のO氏が連
れと二人で過ぎていった。

ここからの下りもきつく、虎縄は昨日で使い
果たしていたものの、こっちの方が必要と思え
る箇所がまだいくつもあった。ド素人までは登
ってこないだろうけれど。さらに現役の2パー
ティーが上がってきて、すれ違う。昼食は済ま
せているというので一安心したが「あんまり時
間ないよ」と声を掛ける。弥次喜多道中風に久
々の山を楽しんでいる矢田部君と加藤君。やは
り加藤家では、父の高三郎頂上写真が見えざる
をえない壁に飾られ、笑顔が威圧しているそう
な。そう、この山は、ワングルの歴史とともに
あった山なのだ。

BHはきちんと片付けられていた。ナカオが
帰宅。世話人としては…現役は金沢からの2往
復でダムに入っている。乗れない子達が出てし
まうではないか。犀川ダムに2台待ってくれる
ように頼み、私は現役の帰りを待つ。降りてき
た矢田部君達とタープを外し、さらに出立する
だけにして現役を待つ。深作君の顔を見るなり
「ダムで待ってもらってるんだからね。乗れな
い人数だけ、先に出して！」と、最後まで指図
して、指名された3人と、駈けるがごとくダム
を目指した。そうであっても楽しげだった新人
二人…新しい時代の始まりが予感できたロード
レースだった。

という次第で、どうみてもナカオの仕事量が
圧倒的だったプロジェクトクラコシ。ひたすら
恐縮・感謝の私に、作業戦力の実態を直視した
林さんは

「ありやなかなかたいへんやな。わしらも時々
、作業に出てやらんなんな」

と、言って下さった。その後、医王山で現役P
と出会った川辺さんは

「『あ、ナカオの人だ！』と次々挨拶されて…
」と、目尻を下げていた。

現役達が刺激を受けられる交流…山現役であ
る人達からが一番見様見真似になるのではなか
ろうか？ 中高年登山はもう先が見えている。
どうガイドをしてあげても「自分が健康で楽し
めればよい」と、還元することを知らない。あ
と何年続くかのブームだ。

ナカオの「生涯登山」「社会性ある登山」の
テーマを拡大解釈するなら、金大ワングルも、
世代の知恵を受け渡せる貴重な若者集団だ。か
つては、学生山岳部と社会人山岳部は張り合っ
て日本の山岳界を開拓してきた。今、学生山岳
部はどこも壊滅状態となり、一方、社会人山岳
部は高齢化した。中高年仲良し・お元気クラブ
で山は一見、カラフルで賑やかだが、薄ら寒い
衰退が進行している。

では若者が山離れする一方であるのかといえ
ば、バーチャル化が進む程、かえって「現実」
への新鮮な感動は強調される面もある。手業へ
の憧れも、生まれているようである。老世代が
次世代に、知恵を伝える手間を惜しんではなら
ない！…とあって、口と筆だけの私は…なぜか
揉み手が癖になりそうな私。



799りし ヒメギフチョウ



奥名 井上 青柳 上馬 沢田 井上 片田 片田 舟田 加藤 森川
 (沢田?11期片田氏妹 3ヶ月だけ15期だった)

2002年 OBスキー in 野沢

加藤
 手依理の方、英検の2次試験があるとのこと。残念ですが参加できなくなりました。今回は、本人も行く気になっていたのですが・・・私は勿論参加します。22日の晩飯からとしますのでよろしく。また、昨年リフト券が安く買えましたが、今年はどうでしょうか。

奥名
 飲んで、食べて、温泉に入って、寝て、帰るだけでスキー合宿参加といえるかどうかは別にして松縄も23日(夕刻着)24日(早朝発)というスケジュールで参加しますのでお忘れなく!

金沢からは奥名号が23日5時舟田宅を出発の予定で、順調に行けば10時前に野沢に到着するでしょう。

保田
 標題の件、大変申し訳ありませんが、参加できなくなりました。この週末にテニスをしていて足に痛めてしまいました。温泉につかり、直すことも考えましたが、医者からは勧められないと言われました。森川さんやその他参加する人にも宜しくお伝えください。

青柳
 今日、スキーを野沢に送りました。メンバーが固まりましたので、お知らせします。9期の保田さんが、突然不参加となりました。なにやらスキートレーニングのテニスで捻挫をしたようです。パウダーで鍛えてもらうことを期待した生徒たち、ガックリです。田村さんは、25日以降も連泊だと、張り切っておられました。井上家は、史三氏の24日泊まりは、決定です。松縄さん、宿でスキーもウェアもレンタルできます。越後高田青木のスキーを披露してもらいたいです。なお、23日土曜日の泊まりは、12名。和室2部屋で、男女同室でお願いします。なお、部屋では禁煙をお願いします。テニスが狭いですが、夜のお茶&酒宴は、充分に楽しめそう。裏にそえる茶菓子と酒の肴を、よろしくご手配下さい。では、例によって、長坂 Gondola 終着駅上レストランで、12時30分にお会いしましょう。

上馬
 「2002スキー合宿 in 野沢」が近づいてきました。車の手配などいろいろ考えていただきありがとうございます。23日(土曜)は、私の車で舟田さんを迎えに行き、奥名君のところまで行こうと思います。二人分なら人と荷物、何とか車内に入りますので。

舟田さんのところ4:30、奥名君のところ5:00予定でいかがでしょうか。これでよいかどうか返事ください。また、奥名君のところまでの道順の要所を教えてください。

ここ半月ほど前から、天気がよければ昼の休みに30分ほど山スキーで事務所の裏の林道歩きをして、体を慣らしてきました。また、この前の土曜日に一里野温泉スキー場で、5年ぶりにスキーをしました。本番でも何とかかなりそうです。あとは当日の天気입니다。

井上家 姉こと齋藤薫です。きたる野沢温泉スキーに向けて、皆様トレーニングに励んでいることでしょうか。今年は史三、和子が参加する予定だそうですが、兩名とも運動不足気味なので皆様のペースについて行けるかどうか。あんまりいじめないで下さいね。奥名さんのメールにもあったとおり、今一つ盛り上がっていないオリンピックですが、それでもテレビを見てるとスキーに行きたくて体がむずむずします。昨年は妊娠中(?)にもかかわらず参加させていただき、大変楽しかったのですが今年は乳飲み子を抱えては行けそうもなく残念です。写真を貼付しましたが、生まれた時はちよっぴりプサイクだった我が子も今ではこんなに可愛くなりました。(親ばか)母が早く孫と一緒にスキーに行きたいと言っているのので、いつか「史じいと和ばあ」が孫を連れて参加するかもしれません。とっても元気な皆様の勇姿をそのうち加藤さんのビデオで拝見させていただきます。それでは皆様よいスキー旅行を。

加藤
 薫ちゃん、俊とおちゃん 久しぶりです可愛い写真ありがとう。写真もだけれど今のうちにビデオ技術を磨いておいてください。そして、次の機会にでも一緒にしたいものです。俊とおちゃん 撮影・監督「齋藤家スキーの一日」の作品制作ではどうでしょうか。また、明石の方までお越し下さい。また、スキーの準備していないけど、宅急便まにあうかな一ま、温泉があるからどうにかなるだろう。

上馬
 2日間の「2002スキー合宿 in 野沢」から、15期金沢組3人は無事元気で昨夕6時頃帰ってきました。一晚開けて、肩と腕が少し痛い程度で、疲れもほぼとれました。初めてのスキー合宿でしたが、幹事長や同代理、事務局長、他みなさんのおかげで、有意義な2日間を過ごすことができました。私にとっては久しぶりの本格的なスキーでしたが、心配した体調も申し分なく、よい汗をかきました。少し安心したこと、そしてスキーのうまさ、特に加藤さんのスト

ツクなしで、ビデオ撮影しながらの滑りが、今もはっきりと頭に焼き付いています。
野沢は以前にも行ったことはありますが、あんなにブナ林がきれいだったとは、初めて知りました。リフトに乗ってブナ林の中を上るだけで気分が落ち着きました。樹氷がきれいでした。新雪のブナ林の中も少しすべりましたが、コースを外れて林の中へ入っていきたく気分でした。温泉も、疲れを癒してくれるいい湯でした。また来年も行くと思っています。

森川
みなさん無事家に帰られた事と思います。天気もまあまで、けが人もなく幹事として、ホットしています。でも、いろんな事がおこるものですね。埼玉のA君の3本ストック事件明石のK君のビデオかみつき事件（あまり食べると太るよ）会津のTさんの方向音痴事件（そう言えば去年もありました。工化の伝統かな？）雪上に消えた金沢のO会長事件 幹事長代理へ
ご苦労さんでした。青柳さんの努力で無事終了しました。よって、代理は03年も継続です。（事務局長了承済み）
加藤監督へ
首をなが—————くして待っています。監督賞は加藤さんに譲るとして、カメラマン賞はストックを持った貴重なK君の滑りの撮影に成功したM君のもので決まりでしょう。

青柳
2002野沢スキープロジェクトは無事終了いたしました。ご協力そしてご参加下さいました皆様に、感謝いたします。
お天気にも恵まれ、楽しく滑り、楽しく集うことが出来ました。奇才加藤監督の「冬の歌」の主演俳優優は、誰だったのでしょうか。やはり存在感を発揮した、2組のファミリーかな？初めて参加した、上馬さん、楽しんで貰えたと思います。スカイラインコースの大滑降で、体力回復に自信を持たせました。また白山での活躍を期待します。
松縄さんは、次回はスキー持参で参加のこと。奥名会長と舟田事務局長には、相も変らぬ優しい心配りを有難う。さて、私にとっては、今シーズンの初滑りを終えたところ。存分に滑れた残りに、たまたま手首の筋肉痛に襲われています。残り少なくなってきた季節、さて次のプロジェクトを本格始動させよう。11期の諸君、またお付き合い頂きますよう、お願いします。

井上
会長さま、事務局長さま、幹事長さま、幹事長代理さま、そして皆様どうもありがとうございました。とっても楽しかったです。これで1年がんばれそうです。
今日は最高のお天気に恵まれ、360度パノラマで日本海だけでなく、白馬三山・唐松・鹿島槍・槍穂・乗鞍・御岳・志賀全山と、どこかのおじさんが「こんなに見えるのは珍しい」と言っていたほど気持ちのいい日でした。うらやましがらせてゴメン！朝9時ごろ田村御大を見送り、午前には加藤監督の指示通り演技し、1時ごろ上がり、中尾の湯で疲れをとって家路に着きました。小山さんは多分飯綱に行き、加藤さんは私たちと一緒に帰り金沢から電車に乗りました。そろそろ明石の自宅に着く頃と思います。やはり同じ釜の飯を食った仲間とはいいいものだと痛感した次第です。ではまた。
いのうえ

PS 節子さま、
水筒を持ち帰りましたのでまた連絡します。今週はちと忙しいのでもう少しお待ち下さい。（もう少しこれが実は曲者なのですが）

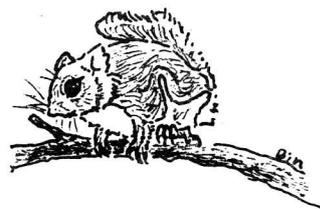
加藤
幹事長（兼ストック紛失渉外係）様
幹事長代理（兼実質幹事長）様
会長（兼参加者を安心させるスキー技術保持者）様
事務局長（兼ワンゲルOBのおかあちゃん）様をはじめユニークな被写体のみなみなさん、どうもありがとうございます。最西からの私が（金～月と）一番長くいた感じですね。暇だと思っているでしょう。それは、誤解です。遠くからきたので、運賃がもった

いないからなのですネ。帰りは、井上夫妻に金沢まで便乗させていただき金沢から臨時サンダーバード100号にて帰りました。車中、偶然知人に会いました。金沢城のなんとか委員会のメンバーの土木担当者として度々金沢に来ている云々とかで、そんな話をしている長旅を歓迎で過ごす事ができました。名前は「北垣」さんというのですが、石垣の研究なので「石垣」に改姓したのでしょうかと思うほどの人です。今年も面白かったですね。今年にはテーブは大丈夫だったのですがカメラの液晶が割れてしまいました。小山さん見たいに、もっと余裕のある滑りをせねばと今後も精進に励むつもりです。
デジカメの映像是大きな画像であっても圧縮せずにCDRに焼いて奇才監督までお送りください。スキー in 野沢も第3作。しかし、ここで使われる「奇才」は時間を超越しているという単純な意味であることを知っていましたか。

小山
昨日、井上さん夫妻、加藤さんと野沢で別れた後、妙高池の平で泊まり、今日は杉野原で滑りました。薄日のさす1日でした。今回の野沢は、天気が良かった割りに滑る時間が短く、のんびり出来ました。来年を楽しみにしています。

舟田
お礼も打たず、失礼しました。帰宅日はまず、妥当にダウン。（首と腕がイテテ…）翌日からは、受験生の追込みに、新会員募集の手配に、全学年教材改訂のため、出す伝票が山ほど…会員の進捗チェックと在庫チェック、そのうえに懇談会のための個人データ書き込みで、お目々しよぼしよぼ。こんな時は仕方ないから、一段落つくまでメールをあけないことにしています。いえ、みなさんがおヒマだっているんじゃないんですよ。きっと、「好きなこととやってきた」時は、疲れはないんですよ。比べて私は、無事を讀んで、すぐ物置にかたづけちゃったもんね！雪も外へ出るのも好きなんです、どうもスピードがあきませんね。来週からは、わかんハイクに励みます。
次のプロジェクト…華麗にお楽しみ下さい。いろいろありがとうございました。2月27日

青柳
月曜日は、天気が良くて良かったですね。うらやましい！！多分私には、2月の野沢では北アルプスの白馬まで見えたことは無かったんじゃないかと思えます。余り滑っていないはずなのに、華麗なシュブールをきざんだ井上夫妻には感心しました。また来年、一緒に楽しみましょう。奇才加藤監督には、近日中にデジカメ画像を送ります。スキーは、どうしても撮るより滑ることが忙しくてあまり面白味のあたる写真になりませんが、次回は、スキーの滑降写真にも、動画モードで挑戦してみようと思っています。



モモンガ

緑輝く会津へ 第1～3期同期会

3期 鈴木 兵一

40周年大会が医王山で開かれた時、帰りに西尾、北、鈴木のおそろ頭が輝き始めた3人が和倉温泉に行き、酒酌み交わしながら、思い出話に花を咲かせました。今度来なかった人達にも30数年ぶりに会いたいという想いが募り、卒業の時後輩が送ってくれた杯に名前が書いてある人達に声をかけようということになりました。そうして、翌年、思い出多い白山の麓、桑島で同期会を持ちました。皆ようやく仕事から解放される年齢となり、張り切って集まり、昔話に夜の更けるのを忘れました。

それ以来、毎年思い出の地を訪ね、旧交を温めてきましたが、今回は、いつも田村氏と私が

自慢している会津の山を見に（登るのではなく）行こうということになり、会津で2泊3日の旅を楽しむことになりました。

日程の都合で、磐梯山、飯豊山に登るわけにもいかず、磐梯高原の五色沼トレッキング、吾妻小富士の噴火口巡りなどを楽しみました。

初日は会津若松市内の名所旧跡をまわって、猪苗代湖畔の高台にある翁島荘に泊り大宴会。翌日は晴れ渡った空のもと、磐梯山、吾妻山など2000m級の山懐をドライブ。吾妻小富士の噴火口巡りで汗を流した後は、休暇村磐梯高原の温泉を堪能しました。

とにかく、皆集まった途端に40年前の紅顔可憐の美少年、美少女??にタイムスリップし（気持ちだけ）楽しい三日間でした。

来年は新穂高から西穂山荘へ行こうとの声あり。



《五色沼にて》



Ar

ハチクマ



《磐梯吾妻スカイラインより西吾妻山を見る》